



青春の火は燃ゆ

全日本マスターズ大会 (9月22～24日・鳥取) 話題の選手を探る

暦の上では9月。長月はマスターズ陸上界にとってはビッグイベントが続く。9月4日からスペインのマラガで開かれる第23回世界マスターズ選手権大会は16日まで。この後すぐ9月22日から3日間、鳥取市で第39回全日本マスターズ選手権大会が待ち受ける。マラガには男女90人が海を渡り、鳥取市には同2015人がエントリーした。今回は全日本マスターズ大会に絞って話題の選手を探る。

シドニー五輪出場・末續さんも

『爽やかな砂丘の風にマスターズ』の大会スローガンを掲げ、1992年の第13回以来、26年ぶりに2回目の舞台となる鳥取会場。当時の1,132人を上回る2,000を超える人が参加する。エントリー数が2,000人を超えたのは4会場連続6回目。

マスターズ世界記録を持っているのは2人。男子の亀濱敏夫さん(92歳・沖縄)と、女子の大日向暎子さん(68歳・長野)だ。M90・100m、200m、400mに出場予定の亀濱さんは、M90・400m 1分33秒99(2016年)、800m 3分39秒07(2015年)を90歳のときにマークした。勢いに乗った亀濱さんは1500m 7分37秒08(2015年)と3種目に快記録を持つ。

昨年の和歌山大会での亀濱さんは、100m19秒90、200m42秒72と2種目とも勝っている。今大会ではどのようなレースを見せてくれるか。注目だ。

一方の跳躍の大日向さんの横顔は、折りに触れて紹介しているので、ご存じの方は多いはず。世界が認めたクラス別世界記録の最新号に記載されている大日向さんの三段跳の記録は次の通りだ。

W50・11m66(2004年)、W55・10m97(2006年)、W60・11m04(2010

年)、W65・9m68(2015年)と4クラスでの記録ホルダーとなっている。大日向さんは世界マスターズ陸上にも出場しており、その活躍ぶりは? マラガで、鳥取で、9m68以上跳べば世界新となるのだが――。

大日向さんは松商学園高(長野)時代に、第19回青森インターハイ(1966/昭和41年)の女子走幅跳で5m66を跳び、高校一になった感激を今なお持ち続けている。

にぎやかな顔触れのなかには五輪のアスリートも。2000年シドニー、2004年アテネ五輪の200mと100mに出て、4×100mRの6位(3走)と4位(2走)。2008年北京五輪で200mは予選で姿を消したが、4×100mRで銅(2走)の力走をした末續慎吾さん(38歳・神奈川)がM35・60m、100m、200mにエントリーしている。超目玉だろう。ベストは100m10秒03(2003年)、200m20秒03(同、日本記録)だ。

北京五輪の女子マラソン代表だった中村友梨香さん(32歳・兵庫)の顔も。今年からマスターズの仲間入りをし、鳥取ではマラソンならぬW30・100mH、走幅跳、やり投にエントリーしている。バラエティーに富んだ種目でどのような活躍を見せるのか、楽しみだ。北京でのマラソンは13位と不本意な順位に終わったが、10000m

のベスト31分31秒95(2008年)、マラソン2時間25分51秒(同)と、国内の一線級として頑張った。

43歳で今なおマラソンで活躍を見せる小崎まりさん(兵庫)も今年からマスターズへ。鳥取ではW40・5000m一本にベストを尽くす。5000m15分12秒76(2003年)、10000m31分34秒15(2005年)、マラソン2時間23分30秒(2003年)の各ベストを持つ小崎さん。2001年の第8回世界選手権(エドモントン)の10000mの代表となり、19位の成績を残した。

華やかな顔触れそろう

“みんなが主役”がマスターズ陸上の趣旨だが、やはり話題となるのは過去の業績だ。日大-住友金属で鳴らした女子投てきの嘉成(旧姓・今岡)俱子さん(77歳・福島)は、マスターズ投てきの女王として輝き、砲丸投でW35、60、65、70、75、円盤投はW65、70、75、重量投のW60、65、70、75、投てき五種ではW70、75と、各クラスの日本記録保持者だ。

今大会のエントリーはW75・砲丸投、円盤投、ハンマー投の3種目。世界選手権のマラガにも出場しており、以上の3種目に加え、やり投、重量投、投てき五種競技の6種目に出る予定。

世界の後、ほぼ1週間後の鳥取でどのような動きで記録に挑むだろうか。

短距離ではW75で対決する渥美(旧姓・塩尻)裕子さん(75歳・滋賀)と、渡川(旧姓・林)孝子さん(75歳・徳島)の争いが見もの。60m、100mで争った後、渥美さんは立五段跳、渡川さんは走幅跳へ。渥美さんは光華学園高(京都)のときにアジア大会代表となり、インターハイ100mの勝者だった。

渡川さんは400m59秒5の日本記録を出し、日本選手権で優勝したこともある。昨年の和歌山大会のW70・100mでは渥美さんに勝っている。

中・長距離ではインターハイ800mで2連覇、800mと1500mに日本選手権のタイトルを取っている奥村(旧姓・脇畑)留美子さん(58歳・滋賀)、1985年神戸ユニバーシアードの女子マラソン1位の深尾真美さん(57歳・大阪)がそろってW55・800mへ。両選手ともマスターズ陸上には毎年顔を出しているが、目標は『優勝することより、参加すること』だ。

今泉(旧姓・石原)愛子さん(53歳・兵庫)はW50・400m、1500m、3000mに出る予定だ。住んでいるのは東京。兵庫に住んでいた魚住中時代に第7回全日本中学校選手権(1980年)の800mでトップに。日本選手権にも出場して、3位と6位(1979、80年)に入賞している。マスターズの全日本大会への参加は2年目だ。

女子ではほかに北海道の児玉澄子さん(82歳)や鈴木郁子さん(81歳)のように、年齢を感じさせない活躍に注目だ。児玉さんはW80・砲丸投、円盤投、ハンマー投に、鈴木さんはW80・200m、400m、立五段跳を予定している。

岩手の石川陽子さん(85歳)は夫の董さん(85歳)との“おしどり出場”で知られているが、陽子さんはW85・砲丸投に絞って出場する。神奈川の岡野なつみさん(84歳)はW80・100mほか。鳥取の岩間悦子さん(81歳)はW80・60mと砲丸投、ハンマー投に出場する予定。

徳島の北島喜美さん(90歳)はW90・砲丸投、円盤投、やり投に出る。クラス別日本記録はないものの、2017年クラス別10傑の砲丸投では4m38でW85の2位。和歌山での円盤投とやり投は、たった“独りぼっち”で8m25、7m15と頑張った。

今年からW90のクラスに上がる北島さんとは別に、80歳代の仲間はまだまだだ。みなさんの健闘に期待。

お目当てはM100の富久さん

お目当ては昨年の和歌山大会で向かい風2mを押し、M100・100mに32秒62でゴールした100歳の富久正二さん(広島)だろう。M100の100m29秒83の記録を持つ宮崎秀吉さん(100歳・京都、2010年)にどれくらい迫るか。それとも更新できるのか。スタンドの注目を集めるだろう。富久さんは砲丸投にも出るが、M100の記録は下川原孝さん(102歳・岩手、2008年)が持っている5m11だ。

98歳の肥田一郎さん(宮崎)は今年も健在。M95・砲丸投、円盤投、ハンマー投の3種目に今回も挑む。1年前の和歌山ではM95の砲丸投3m10、円盤投6m22、ハンマー投5m72と、出場者は肥田さんだけだったが三冠を。このうちハンマー投は96歳のときに、7m60のM95のクラス別日本記録を樹立。

前回のM90・砲丸投は1～3位までを福島信春さん(93歳・佐賀)、遠藤隆さん(94歳・静岡)、大石正さん(91歳・徳島)が占めた。今回は福島さんが94歳、大石さんは92歳となり、遠藤さんを交え、砲丸投で顔を合わせる。福島さんは砲丸投のほか、昨年3位だった100mに参戦する。大石さんは前年1人参加で1位の円盤投、遠藤さんはこちらも参戦1人だったハンマー投を選んだ。3人が顔を合わせる砲丸投が見ものだろう。

90歳代はまだまだいる。前回はM85クラスだったが、今年からM90に上がり円盤投、ハンマー投、やり投に照

準を合わせている駒崎実さん(埼玉)。白樫平八さん(兵庫)も90歳を迎え、M90・3000mWへ。

かつてのヒーローたちも腕ぶしている。M75・円盤投とやり投に出場の木村友一さん(77歳・神奈川)は、やり投でインターハイや全日本実業団選手権で優勝するなど活躍した。神奈川には競歩の浅野輝彦さん(76歳)もいる。M75・3000mWに出る浅野さんは、5000mWに21分32秒4(1969年)、10kmWで44分16秒2(1976年)に日本記録をつくった時代があった。力歩ぶりはお手本になるだろう。

日本選手権の混成競技で入賞歴のある小松宏さん(76歳・大阪)はM75・立五段跳、砲丸投、円盤投にエントリーしている。1964年東京五輪のとき、走幅跳で陸連強化選手になっていた山田展也さん(79歳・岐阜)はM75・60m、走幅跳を予定している。

M55・ハンマー投には年齢のハンデはあるが、59歳の栗原圭三さん(埼玉)がサークルに立つ。1976(昭和51)年のインターハイで史上初の偉業となるワン・ツー・スリーを決めた行田高(埼玉)トリオのハンマー投。この中のNo.2が栗原さんだった。前回の和歌山では39m06でM55クラスを制した。インターハイといえば、M40・100mの吉岡康典さん(43歳・愛知)、M45・60m、100m、200mに赤堀弘晃さん(46歳・兵庫)、M35・1500mの田子康宏さん(35歳・広島)、高校駅伝で踏ん張った報徳学園高OBの北垣章さん(55歳・兵庫)がM55・5000mに参加する。このほかにも現クラス別日本記録保持者がかなりエントリーしており、大きな期待が持てる。



▲1976年のインターハイで男子ハンマー投1～3位を独占した行田高(埼玉)トリオ。2位だった栗原さんは前回の和歌山で優勝、今回も注目